

第19課 近所付き合い（その3）

1. この課のねらい

この課でも、近所付き合いをめぐるいくつかの場面を取り上げるが、特にこの課では、誘いや依頼などを断ること、あるいは、謝るという行動に伴う言語表現を中心に学習させる。その際の理由の述べ方は特に重要である。

- (1) 頼まれたことを、理由をあげて丁寧に断る。
- (2) 新聞の勧誘を断る。
- (3) 立ち話などを適当な折に切り上げて別れる。
- (4) 隣の人などに苦情を言われたときの謝り方。

2. 学習項目とその扱い方

〔会話―1〕

(1) 学習項目表

| 区分 | 使 用 | 理 解 |
|-------|---|---|
| 最重要項目 | <p>○わたし、まだ 日本語が よく できないので…。(6)</p> <p>○それに 町内会のことも まだ よく 分からないんで、いつも 山本さんに 教えていただいているんです。(6)</p> <p>○できたら、ほかの方に お願いできませんでしょうか。(6)</p> | <p>○今日は ちょっと お願いが あって 来たんですが。(3)</p> <p>○実は 町内会の役員のことなんです、これ みんなが 順番に やることになっているんです。(5)</p> <p>○で、来年は、林さんの番なんです、お願いできませんか。(5)</p> |
| 重要項目 | ○申し訳ありません。(8) | |

(2) 準備

依頼内容をかえた応用会話を作り、テープに録音しておく。

(3) 導入

「町内会の役員をしたことがありますか」「頼まれたことがありますか」など、話題に関連した質問をする。

(4) 練習

- ①会話本文のテープを聞いて、林さんの部分については言えるようにする。特に、どのような依頼の内容だったかを確認する。
- ②次に、教授者が頼む側になって、ロールプレーを行う。
- ③「～ことになっている」については、「家賃はいつ払いますか」「燃えるごみはいつ出しますか」「燃えないごみはいつ出しますか」などの質問をして、理解できているかどうか確かめる。
- ④〔1. 表現練習〕は、特にこの段階では練習する必要はない。「いつも」と「いつでも」の違いなどを説明しても、学習者に混乱を招くだけであるし、学習者の自発的な発話の中に出てきたときに取り上げればよい。

〔会話一2〕

(1) 学習項目表

| 区分 | 使用 | 理解 |
|-------|---|--------------------------|
| 最重要項目 | ○あの方、わたし 中国から 帰国して来たばかりなので、まだ、日本語がよく読めないんです。 (7) | ○毎朝新聞 読んでもらえませんか。 (6) |
| 重要項目 | ○はい、どちらさまでですか。(1) | |

(2) 準備

新聞の勧誘場面以外の応用会話を考え、テープに録音しておく。例えば、化粧品のセールスマンが来たというような場面を考えてもよい。

(3) 導入

「新聞は読んでいますか」、新聞を読まない場合は「なぜ読んでいませんか」「新聞の勧誘はよく来ますか」「新聞は読みますか」などと質問して予習の程度を確認する。

(4) 練習

- ①会話本文のテープを聞き、繰り返させて内容の確認をする。
- ②定着したと思われたら、ロールプレーを行う。教室であれば、実際にドアをノックするところから始める。
- ③次に、用意した応用会話のテープを聞き、「どんな場面ですか」「だれが何をしていますか」「どうやって断りましたか」などと質問する。

〔会話－３〕

(1) 学習項目表

| 区分 | 使 用 | 理 解 |
|-------|---|-------------|
| 最重要項目 | ○あつ、わたし ちょっと クリーニング屋さんに 寄らなければなりませんので。(3) | |
| 重要項目 | ○ずいぶん 寒くなりましたねえ。(1) | ○じゃ、ここで。(4) |

(2) 準備

この会話の類似場面として、朝の出勤途中あるいは昼食時などに、近所の人や知り合いに会ったときを考え、応用会話を作りテープに録音しておく。

(3) 導入

特になし。

(4) 練習

- ①会話本文のテープを聞いて内容の確認をし、繰り返す。
- ②教授者と学習者とでロールプレーを行う。
- ③次に、用意した応用会話のテープを聞かせ、場所、登場人物の関係などについて質問する。余裕があれば、同じような場面を考えて練習をするとよい。

〔会話－４〕

(1) 学習項目表

| 区分 | 使 用 | 理 解 |
|-------|-------------------------------------|------------------------|
| 最重要項目 | ○どうも 気がつきませんで。(2) ○今、片付けますので。(6) | ○この箱 ちょっと どけていいですか。(1) |
| 重要項目 | ○物置に 入れて、整理しようと思ってるんです。(4) | |

(2) 準備

苦情を言われる場面の応用会話を考え、テープに録音しておく。

(3) 導入

教室にある物を使って、最初の「すみません。これちょっとどけていいですか」という部分を教授者が言い、それに対する答え方をみる。

(4) 練習

①予習が十分であれば必要ないが、会話本文のテープを聞き、どんな場面か、なぜ苦情を言っているかなどを確認し、林さんの部分については繰り返す。

②〔2. 表現練習〕を、その途中で行ってもよい。〔2. 表現練習〕で形の練習が終わったら、次のような練習をする。

例 学校へは、いつ行きますか。→はい、明日行こうと思っています。

この本は、いつ読みますか。→はい、明日読もうと思っています。

③準備した応用会話のテープを聞かせ、どこで、だれに、なぜ、苦情を言われているか質問し、そのとき、自分だったらどう謝るか考えさせる。

3. 文型・文法に関する参考事項

(1) 「こと」を含む表現

今まで、「こと」を含む慣用句をいくつか学習した。その中の代表的な用法をまとめる。

① 「～ことがある」

この表現で気を付けるべきことは、次の二つの形の意味の違いである。

1. 行くことがある。(現在あるいは将来、起こる可能性があること。)

2. 行ったことがある。(これまでに経験したこと。)

② 「～ことにする／～ことになる」

「～ことにする」は、自分の意志で習慣、計画などをかえたり、あるいは、新たに決めたということを表す。

これに対して「～ことになる」は、自分の意志以外のものによる決定であることを示す。

(2) 「う／よう／つもり」など、意志・予定の表現

「う／よう」も「つもり」もともに意志・予定を表すと言われるが、必ずしも同じことを表すのではない。その違いは、「う／よう」は、例えば、「昨日遅かったから、今日は早く帰ろう。」という文は、この文を言っているときのみの意志であるのに対して、「つもり」の方には、発話以前からそういう意志を持っているという含みがあって、やや持続的である点にある。

また、「う／よう」は意志をそのまま表すものとなるが、「つもり」は意志をそのまま表すものではなく、やや客観的なものと言ってもよいものである。したがって、「う／よう」を使って客観的に表現しようとするれば、「～う／ようと思っている」となり、これは「～つもりだ」と、ほぼ同じ働きを持つことになる。